

鳥博セミナー

「越冬地から切り拓くノスリ研究の新境地」



ノスリは山地や農地に生息する身近な猛禽類として知られていますが、普通種ゆえに注目を集めることが少なく、謎の多い鳥です。国内では主に中部地方以北で繁殖しますが、西日本での繁殖は少なく、夏に目にする機会は限られます。しかし秋になると、越冬のためにたくさんのノスリたちが西日本へ渡ってきます。今回は、西日本の越冬地を起点としたノスリの研究をご紹介します。

西日本の越冬個体は下面の白さが良く目立ちます。しかしそれらに混じって、やけに濃い色の模様を持つものも少数確認されます。巷では、それらは「大陸産では？」と噂されていました。私たちは西日本で越冬するノスリたちを捕獲し、形態と遺伝子を調べるとともに、GPSロガーを装着して渡りを追跡してみました。その結果、白っぽいものと濃色のものは遺伝的に異なる亜種で、後者は対馬海峡を渡りロシア極東まで到達していることが判明したのです。両者の渡り経路と越夏地は日本海を境に分かれており、日本海が存在が、亜種の分化に影響した可能性があることも分かりました。

越冬地のノスリは不思議な行動も見せてくれます。越冬個体の多くは単独でなわばりを持ち、侵入者に対して排他的なのですが、時折2羽が同じなわばりを共有していることがあります。私たちはこの行動を見せる2羽を追跡してみました。すると、彼らはつがいではない雌雄で、全く異なる越夏地へと渡ることが判明しました。2羽の社会的関係やなわばり共有の理由は、今後の研究で明らかにしたいと思っています。

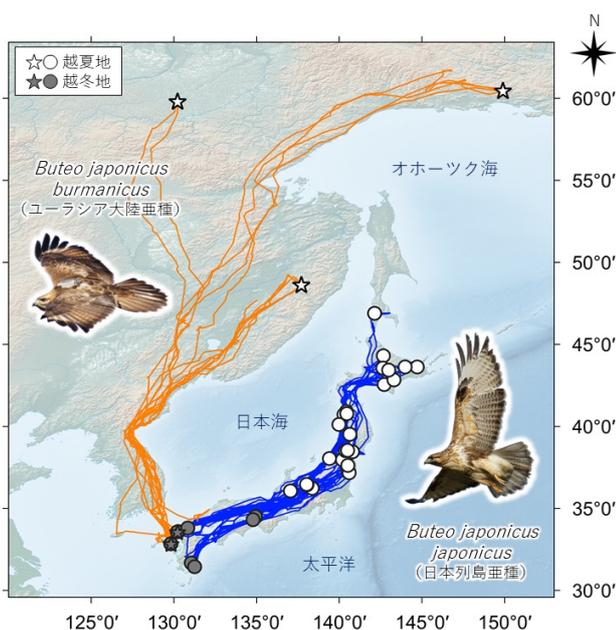


図. 日本で越冬するノスリ2亜種の渡り経路。分類は世界鳥類目録v13.1に基づく。

●講師プロフィール



中原亨（なかはら とおる）さん
北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）学芸員。1989年宮崎県都城市生まれ。博士（理学）。九州大学在学時にカササギの営巣場所選択に関する卒業研究を行い、研究の世界へ。大学院生時代は植物を材料に進化生態学の研究を進める傍ら、鳥類研究にも参加。長崎大学の特任研究員となったのを機に鳥類の追跡研究に着手した。2018年より現職。